

ホーム名:グループホーム(1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『会社理念』・『介護理念』は玄関と事務室に掲示し、毎朝の朝礼の際に唱和することで、日々理念に基づいたサービスを提供させて頂くという想いを確認し合っている。	チームケアを重視した法人理念を職員が常に意識できるよう毎朝、朝礼で確認しながら、日々の実践につなげている。事業所の理念は、今後、策定を予定されている。	今後、地域に密着した事業所独自の理念を策定されることに期待をしたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和元年11月の開設後より、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として活動は自粛しており、日常的な交流は行えていない。町会長様宅や地域包括支援センターには定期的に訪問し、情報交換させて頂いている。	コロナ禍の中ではあるが、地域との関係性の構築に取り組みまれ、地域の代表者や地域包括との交流を通じて、関係性は強化されつつある。	地域活動協議会を通じて、地域活動にも協力をしながら、連携を強化されていくことに期待をしたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍においても、施設見学のご希望にはできるだけ柔軟に対応しており、食事付き見学会も行っている。また、入居のご相談の際には、お困り事やご本人様・ご家族様が知りたい情報をできるだけ詳しくお話するよう心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は6回とも書面開催になった為、構成員の方に報告書(入居者様の現況報告・運営報告・今後の行事予定など)をご郵送し、『ご意見・ご質問シート』にてご意見を回収させて頂いた。頂いたご意見は真摯に受け止め、サービス向上の為に改善や取り組みに努めている。	コロナ禍の影響で、書面開催となる中、事業所の運営状況が分かる資料と意見シートを関係者に送付し、意見を頂いている。頂いた意見は、サービスの向上につなげている。	地域活動協議会を通じて、地域活動にも協力をしながら、協議会メンバーの参加促進に期待をしたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	今年度は主に書面や電話で連絡を取らせて頂いたが、担当の住吉区北地域包括支援センターには定期的に伺い、情報交換させて頂いている。今後は、住吉区GH連絡会への参加もさせて頂き、協力関係を築いていきたい。	市の担当者訪問時には、事業所の課題等を説明し、サービス向上につながるアドバイスを頂き、協力関係の強化に取り組まれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎に身体拘束廃止委員会を開き、身体拘束についての現状を確認している。また、新人職員に対しては、入社後に指針・マニュアルの内容について指導している。利用者様と日々関わらせて頂く中で、職員は自分達が行っているケアが適切かどうか常に考える姿勢を大切にし、気になることは些細なことでも意見交換し、見過ごさないように努めている。	生命保護を第1に、職員が医師や家族と連携しながら、身体拘束のないケアの実践に取り組まれている。3ヶ月に1回、身体拘束検討委員会が開催され、議事録は、不参加の職員も確認されている。	身体拘束検討委員会に地域包括支援センターの意見を取り入れることも有意義であると思われるので、委員会への地域包括メンバーの参加促進に期待をしたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月毎に高齢者虐待防止委員会を開き、身体拘束とも関連付け、重要なポイントを再確認しながら職員への注意喚起している。また、「閉鎖的体質」に陥り「自分達だけに通じる常識」を生むことのないよう、勉強会では事例検討も取り入れている。管理者・介護リーダーが中心となり、利用者様の心身の状態に変化がみられないか、細かな観察と情報収集に努めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は、ご家族様などからのご質問・ご相談を随時受け付け、事業や制度の概要をご説明させて頂くようにしている。職員は、内部研修を通して学ぶ機会を持ち理解に努めている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約の際に内容を読み合わせさせて頂き、ご理解・ご納得が得られるよう援助している。解約や改定の際には書面でお知らせし、疑問点等があれば丁寧にお答えするよう努めている。</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に事業所内の相談窓口を掲示し、ご意見箱を設置しているが、疑問点やご相談等は直接職員に話して下さる利用者様が多い。家族様も電話でお問い合わせ等して下さるので、その際は丁寧な対応に心掛けている。苦情については、その内容を記録に残し、まず管理者と介護主任で適切な対応について話し合い、解決策・今後の方針等は全体会議で通知している。</p>	<p>コロナ禍の影響で、運営推進会議は、書面開催としているが、家族には、資料と合わせて意見シートも送付し、意見があれば、運営に反映できるよう対応されている。又、時間制限はあるが、利用者との面会前後で、意見も頂けるよう家族とのコミュニケーションを重視されている。</p>	<p>今後、対面での運営推進会議開催後も引き続き、運営推進会議不参加の家族に意見シートを送付、意見を表せる機会の1つとして継続されることに期待をしたい。</p>
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月の全体会議で職員の意見や提案を聴取している。検討・改善等して欲しい事柄は、事前に介護リーダーに伝えて貰い、その事柄については会議内で必ず話し合うようにしている。職員が必要と感じている業務改善や物品購入等については、管理者が優先度の高い内容・物から対応している。</p>	<p>管理者と職員は、日々、お互いに意見が言い合える信頼関係が構築できている。定例会議での意見や提案は、優先順位をつけて、運営に反映できるよう取り組まれている。会議不参加者にも議事録を確認してもらうようにしている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は管理者の、管理者は職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、適材適所の役割分担や給与面に反映させている。個々の職員の想い等をゆっくりと聞かせて貰う時間が作れない時も多いが、できる限り努力している。新人職員については、『初回メンター記録』の内容を確認し、不安等の軽減に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員は、年度初めに其々の年間目標を立てて提出し、半年毎に自己評価と上司評価を行っている。職員が自己研鑽できるように法人で年間研修計画を立て、受けたい研修にできるだけ参加して貰えるよう、可能な限り勤務調整しているが、職員数にゆとりがない時は希望に添えないこともある。資格取得の為の外部研修については、職員と受講時期を相談し、勤務調整を行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>今年度は、電話や書面での情報交換が多く、開設後よりコロナ禍が続いたこともあり、地域の同業者との交流は図れていない。今後は、GH連絡会等への参加もさせて頂きたいと思っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>施設見学のご希望や入居のご相談を受け付けた際には、ご本人様や家族様、関係者の方のお話を傾聴し、其々の想いや置かれた立場・環境を考慮しながら、施設ができる対応についてご説明している。入居前面談からご入居に至る迄の間、落ち着いて準備を進めて頂けるよう、連絡を取り合える関係を大切にしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>お問い合わせの連絡を頂いた時や施設見学に来て頂いた時より、相談し易い対応に心掛けている。家族様が不安に思っていることやお困りごとの現状をできるだけ正確に把握し、疑問点には丁寧に答えするようにしている。また、入居後の利用者様のご様子は、電話やお手紙でお伝えするようにしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族様や関係者の方には、利用者様の入居前の生活状況や認知症々状の情報が少しでも多い方が入居後の援助がスムーズに行えることをご説明し、可能な限り詳しく情報を収集させて頂くようにしている。その上で、緊急性や優先順位を見極め、各種制度の情報提供や他事業所のサービス・医療機関等のご紹介も行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者様の個々の能力を活かせる家事作業等の役割分担を思考し、お互いに協力し合い楽しく取り組める援助に努めている。職員もまた、一度しかない今日という一日の暮らしを利用者様と共に楽しみたいという想いで関わらせて頂いており、これからも利用者様の人生経験から学ばせて頂くという姿勢を大切にしていきたい。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族様のご希望に応じて、LINEによるWeb面談を受け付け、画面を通してではあるが利用者様のご様子をお伝えさせて頂いている。また、家族様のご来設時・ご面会時やお電話を頂いた際に、利用者様の生活状況をご報告させて頂き、1～2ヶ月毎に発行している広報誌や毎月家族様・後見人様へのお手紙でも、利用者様の近況をお伝えするようにしている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>今年度は、利用者様に外出制限をお願いした結果となってしまったが、利用者様にとって大切な家族様やご友人との関係が途切れないよう、日々の暮らしの中で話題にしたり、葉書きやお手紙での交流が続けられるようにも努めている。新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら、家族様との外出や外食等も支援していきたい。</p>	<p>利用者の友人や知人等、気軽に立ち寄れる環境づくりを心掛けているが、コロナ禍の中で、対面が難しいため、手紙や電話での関係継続を支援されている。オンライン面会も実施し、コミュニケーション手段の充実化にも務めている。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者様は他利用者の障害を理解し難い状態であることが多いので、職員が中に入り暮らしを共にする仲間のような存在となれる支援に努めている。日々のティータイムやレクリエーション、お誕生日会、季節の行事等を通して、程良く楽しく他利用者と関わる事ができるよう援助している。</p>		

22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後も、ご相談等があれば電話や来設して頂いて良い旨をお話させて頂いている。ご入院や他施設への移動による退去の場合には、病院や施設からのお問い合わせにその都度対応させて頂いている。</p>		
----	--	---	--	--

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居時にご本人様のご希望の聴き取りを行っているが、意思疎通が困難な利用者様の場合には、表情や反応を観察し、家族様や関係者の方からもお好きだった物や事を伺うようにしている。日々の利用者様との関わりを通し、馴染みの信頼関係を築きながら、その人の想い・希望を表出し易い環境作りを努めている。個々の利用者様のご意向に直ぐに対応できない時には、代替策をご提案したり一緒に予定を立てるようにしている。	普段のケアの中で知ったことや気づいたことをすぐに今後のケアに反映させるよう職員間で共有している。その上で、利用者の個性を理解しながら、利用者の楽しみや喜びを引き出すように努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご入居前に情報収集させて頂いた生活歴やサービス利用の経過等は『入居前相談記録』に纏め、職員はその内容の把握に務めている。ご入居後は利用者様や家族様との信頼関係を築きながら、お話を伺うようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的には、生活リズムを崩さないように昼夜逆転を起こさないように援助しているが、利用者様一人ひとりのペースに合わせてお好きな活動ができるようにも配慮している。また、その日の心身の状態を観察しながら関わり、気になる変化を認めた時には介護記録に記載し、朝礼や連絡ノートを活用して情報の共有に努めている。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や家族様のご意向を可能な限り聴取し、定時・状態急変時等のアセスメントの結果、サービス担当者会議や全体会議の際に職員から出た意見も取り込み、計画作成担当者が介護計画を作成している。内科・精神科・歯科医師や歯科衛生士、福祉用具専門員等の関係者とも情報交換し、利用者様一人ひとりの課題が解決できる介護計画の作成に努めている。	ケアプランは、アセスメントがしっかりできており、利用者の意向が反映されている。 又、ケアプランの決定や変更時にも必要な関係者の意見が反映され、適切に作成されている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	他職員が書いた記録を読み、利用者様の状況を把握したりケアのヒントを得て実践に繋げられる職員もいるが、他者の記録を確認する必要性や残すべき記録の理解が不十分な職員に対しては、その都度、注意・説明している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関との連携を図り、酸素吸入、尿道カテーテル管理、血糖測定等を要する方の受け入れを行っている。また、協力医療機関の整形外科や皮膚科等の受診介助も職員の都合がつく限り対応させて頂いている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設近隣には多くの神社仏閣があり、一番近くにある『莊嚴浄土寺』には利用者様とお散歩の際や初詣でお参りさせて頂いている。今後は、町会長様や地域包括支援センターの方等から行事や催し物の情報を頂き、できるだけ参加して頂けるように援助していきたい。	
		○かかりつけ医の受診診断	内科・歯科については、入居契約時のご同意の下で、基本的には施設内の協力医療機関の計開診	協力医療機関と密接に連携

30	11	<p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>は、施設内の協力医療機関の訪問診療をご利用して頂いている。利用者様の心身の状態に応じて必要な検査や診療がスムーズに受けられるよう、救急搬送病院に関するご希望も確認し、援助や対応させて頂いている。また、眼科等の専門医・科への受診の支援等も行っている。</p>	<p>協力医療機関と直接に連携しており、定期的な主治医の往診があるため、主治医以外の利用者の状況に応じた医療機関への通院等も適切に支援されており、家族の理解と信頼を得ている。</p>	
----	----	---	---	---	--

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>介護職員は、利用者様の体調や病状の変化に気付いた事には看護師に報告するよう指導している。これ位なら大丈夫かと自己判断せず他職員とも相談し、情報を共有しながら利用者様の健康管理を行っている。管理者・介護リーダーは、利用者様の主治医・訪問看護師、薬剤師との連携に努め、服薬管理・適切な処置を行い、経過を把握した上で、介護職員の指導に当たっている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時にはできるだけ早期に介護サマリーを提出し、病院からの問い合わせ等にもその都度対応している。できるだけ良い状態で早期に退院できるよう、主治医や看護師との情報交換に努め、可能な限り面会やカンファレンスに赴くようにしているが、病状により退院が困難な場合には、家族様にご意向を確認しながら転居・退去を含めた話し合いをさせて頂いている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所までできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化された際や終末期に施設で対応できる内容を明示した『重度化した場合の対応に係る指針』『看取りに関する指』を入居契約時にご説明させて頂き、同意を得ている。利用者様の重度化が予測された段階で家族様のご意向を伺い、医療機関との連携にも努めている。また、職員が不安なく看取り介護に取り組めるよう、今後は定期的な勉強会を行っていきたい。</p>	<p>重度化した場合の対応や終末期の看取りについて、事業所としての対応方針を入居時に家族にも説明がなされ、同意を得ている。その上で、医療機関とも連携し、事態発生時には、家族の意向の再確認を行い、管理者を中心に職員がチームとして対応できるよう態勢を整えている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>発生した事故については、数日中にカンファレンスを開いて対策を検討し、翌月のリスクマネジメント委員会で話し合っている。転倒等の事故発生時や急変時の対応については、定期的に勉強会を行っている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防訓練は職員数の少ない夜間帯の火災発生を想定した訓練も行っている。保存水・食の備蓄にも努めているが、施設周囲には高層ビルより古い民家が多いので、災害時に施設内でどれだけの期間生活が維持ができるのかが重要であり、『非常災害対策計画書』の内容が現状に見合っているか、今後も定期的に確認していく必要がある。</p>	<p>年2回、火災を想定した訓練が計画的に実施されている。又、BCPも策定され、災害時でもケアを継続できるよう態勢の強化に取り組んでいる。</p>	<p>地域活動協議会を通じて、地域の災害対策活動にも協力をしながら、事業所の災害時の支援を強化していくことに期待をしたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者様一人ひとりの生活歴や認知症の状態に合った言葉掛けや援助方法に心掛け、日常のケアの中で職員の気になる対応や不適切な言葉掛けがあれば、その都度注意し合ったり、全体会議で話し合うようにしているが、意識の低い職員には個別で指導している。また、サービス向上委員会を3ヶ月毎に開き、接遇・マナーについて話し合っている。</p>	<p>利用者との言葉遣いにおいて、親しみやすさと馴れ馴れしさとの違いを理解し、ケア内でメリハリをつけている。</p> <p>又、委員会での意見交換や関連した職員研修を通じて、職員の意識向上にも取り組んでいる。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>職員が一方的に決めてしまうことのないよう、できるだけ選択肢をご用意したり、信頼関係を築きながら思いを表出し易い場面設定の援助を行っている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>共同生活の中で、可能な限り利用者様一人ひとりの生活リズムや主体性を尊重し、その人らしい日々の過ごし方ができるように柔軟な対応に努めている。言葉の理解や表現が困難な方に対しては、表情や仕草、行動を観察しながら、できるだけ穏やかな気持ちで過ごして頂ける居場所作りに努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>利用者様には、好きな服装ができるよう援助しているが、気候や室温に合った声掛けをしながら清潔な物を身につけるられるように努めている。訪問理美容のご利用の際には、ご本人様または職員が髪型や長さ等のご希望を美容師にお伝えし、満足できるおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>基本的に三食手作りし、提供させて頂いている。月に一度は特別食（行事食）に取り組み、食事からも日本の四季折々の風趣や楽しみを味わって頂けるよう努めている。可能な利用者様には、食材の下ごしらえや食器洗い・拭き等の作業に参加して頂けるよう援助している。また、お誕生日会用のケーキも手作りし、デコレーション等の作業は利用者様にもお手伝いして頂いている。誤嚥予防の為、昼・夕の食前には口腔体操を実施している。</p>	<p>栄養管理の行き届いた三食と月1回の特別食（行事食）が提供されている。味や見た目にもこだわり、温かいものは温かく、食材は彩りや旬のものを取り入れ、季節を感じながら楽しめる。</p> <p>利用者には、支度や後片付け等無理なくできることをされている。</p>	<p>利用者が食べたい物を提供する特別食を検討してみてもどうか。利用者の楽しみの1つにもなるかと思られるので、検討されることに期待をしたい。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>利用者様の年齢や体格、運動量、疾患、咀嚼・嚥下状態等を考慮し、主治医にもご相談しながら利用者様一人ひとりの状態に合った食事量・形態での提供に努めている。食事・おやつ摂取量は毎食個人記録に残し、基本的には月1回体重を測定して変動に応じた食事提供量の見直しを行っている。</p>		
		<p>○口腔内の清潔保持</p>	<p>訪問歯科衛生士に口腔ケアの指導を受けて頂き、毎食後に利用考様</p>		

42	<p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>専ら、併せて、母国語に利用者の能力に合わせた口腔ケアの声掛けや見守り、介助を行っている。「口腔ケア・マネジメント計画書」を作成し、歯科医師または歯科衛生士に記載して頂いた助言は職員が回覧して確認している。歯科医師・歯科衛生士が訪問された際に職員は気になることをご相談し、アドバイスを頂きながら口腔内ができるだけ良い状態で保てるように努めている。</p>		
43	<p>16</p> <p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個別排泄記録でパターンを把握し、利用者様一人ひとりに合った声掛けや誘導を行っている。尿・便意の訴え時やサインに気付いた時は、できるだけ早くトイレに誘導するようにしている。尿・便意はあるが後始末等が十分にできない方や失敗を隠そうとされる方には、プライバシーに配慮しながらできない部分をお手伝いしたり、タイミングを計りながら着衣交換・清掃の援助に入るようにしている。可能な限り排便コントロールを行い、不快な時間が長く続いたり失敗による不潔行為等が減らせるように努めている。</p>	<p>利用者ごとに排泄パターンを把握し、時間管理を行い、できる限り自立を促せるよう、細やかな支援を行っている。又、個人の尊厳やプライバシーに関わることでもあるため、利用者への配慮にも気配りをしながら、介助支援に努めている。</p>	<p>排泄の自立を維持できるよう、骨盤底筋体操等の運動を取り入れることにも期待をしたい。</p>
44	<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>棒・タオルを使用した体操や廊下歩行、近隣の散歩援助を行っている。食事やおやつで果物やヨーグルト等を提供したりもしているが、便秘傾向が強い方もおられるので、医師の指示の下で必要な頓用下剤服用や坐薬挿肛の援助も行っている。</p>		
45	<p>17</p> <p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴の曜日は、往診日や行事等を考慮して介護リーダーが決めているが、利用者様のその日の体調に応じて臨機応変に対応している。拒否される時には、時間を置いたり、翌日に変更したり、清拭・更衣・足浴等で対応させて頂くこともある。入浴前に体調とバイタルサインを確認し、湯温や浴槽に浸かる時間等もできるだけご本人の好みに合わせるようにしている。また、柚子や温泉の入浴剤で気分が変わる援助も行っている。</p>	<p>原則は週2回の入浴であるが、利用者の意向や体調に応じて臨機応変に入浴スケジュールを調整されている。又、発汗や失禁のある場合には、臨機応変にシャワーや清拭を行い、利用者が清潔で気持ちのよい生活ができるよう配慮されている。</p>	

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>昼夜逆転を来さないように注意しながら、基本的には利用者様個々の生活習慣やその日の状態に合わせて午睡や就寝をして頂いている。意思表示が困難な方の場合は、心身の状態を観察しながら必要な休息・睡眠時間が取れるよう援助している。中途覚醒された際には、なるべく頓用の睡眠剤は服用せずに、談話したり飲み物を提供する等して再入眠を促すようにしている。</p>			
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬援助時は、ご本人様のお顔を見ながら薬袋の名前・服用時間を声を出して読んで確認し、薬を飲み込まれる迄の見守りを確実にを行うように教育しているが、落薬事故が発生する時があり、その都度『事故報告書』を記載し、今後の対策について話し合い実践している。職員が薬の作用・副作用や注意点をいつでも確認できるように利用者様の薬剤情報をファイルに纏めている。</p>			
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者様一人ひとりの生きがいや残存能力の把握に努め、役割を持って家事作業等を行って頂くようにしている。また、塗り絵や歌唱等の得意分野で力が発揮できるような場面作りにも心掛けている。外出が可能な状況になれば、ご自分の好きな物等を買いに掛ける援助も行っていきたい。</p>			
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者様の体調とご希望を確認し、近隣の散歩にお連れしている。短時間でも気分転換ができるよう、ベランダや1階のテラスで外気・日光浴の援助も行っている。中々思うように外出援助ができない状況が続いているが、今後はドライブレック等にも取り組んでいきたい。</p>	<p>コロナ禍の影響で、遠方への外出が難しいため、近隣への散歩やお寺への参拝等を実施されている。又、近隣への外出できないときには、ベランダやテラスに出て、外気浴や日光浴により、利用者の気分転換につながる支援となっている。</p>	<p>地域活動協議会を通じて、地域の活動にも協力をしながら、近隣の地域資源の活用を相談してみてもどうか。近隣の外出場所の充実にもつながるかと思われる。</p>
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理が可能な方は自己で所持して頂くこともあるが、基本的には施設が立替えさせて頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご希望に応じて、携帯電話を持参して頂いたり施設の電話を利用して頂くことが可能である。また、手紙や年賀状等を書いたり投函するお手伝いをし、大切な人との繋がりが途切れないように支援している。</p>		
		<p>○居心地のよい共用空間づくり</p>	<p>職員は、共有の生活空間が衛生的で利用者様に気持ちよく利用</p>		

52	19 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには空気清浄機を設置し、換気と清掃・消毒を分担・協力し合っている。リビングには、壁に利用者様と職員が共同で制作した季節の作品を貼り、YouTubeで好みの音楽を流したり楽しみにされているTV番組を視聴できるようにも配慮している。また、室温・湿度、採光にも注意を払い、調理の音や匂い、人の温もりが感じられる空間で、生活感のある暮らしが送れる援助に心掛けている。家具等の配置については、利用者様の動線に配慮し、安全で落ち着いて過ごして頂けるように努めている。	コロナ染症対策の設備が整備され、清掃、換気、消毒も適切に実施されている。その上で、共有スペースや廊下には、季節を感じられる装飾や利用者が作成した作品を掲示している。利用者は、心地よく、安心して過ごせる空間となっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれる、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで気の合う方と昔話を楽しんだり、新聞や雑誌を読んだり、独り居室で静かに休んだりできるように援助している。他入居者の状況理解が困難な方もおられるので、お相手の方に負担が掛かっていないか等さり気なく見守り、できるだけお互いに不快な思いをされないように支援している。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や道具等は、安全面を考慮した上で配置や保管場所、ご使用時以外は職員がお預りさせて頂いた方が良いかどうか等について検討し、できるだけ使用して頂けるよう援助している。これ迄の生活の中で大切にされてきた衣類や写真等の思い出・趣味の品物、お人形等も持参して頂き、その人らしい生活空間作りを心掛けている。居室内に物が多過ぎると混乱される場合もあるので、家族様と相談しながら必要な物を徐々に揃えていくよう配慮している。	コロナ染症対策として清掃、換気、消毒も適切に実施されている。利用者や家族の希望に合わせて、自宅で使用していた馴染みの物等を持ち込んでもらい、家庭的な自分の居場所として意識いただけるように支援している。利用者は、安心して居心地よく過ごせる居室となっている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各階の移動にはエレベーターを利用して頂いている。車椅子の自操ができる方にはできるだけご自分で頂くようにし、居室を覚え難い方には目印となる物を付ける等している。床の状態等、安全面に配慮した環境整備に心掛け、薬液や刃物類等の安全・保管管理の徹底に努めている。また、来設者の対応については、インターホンのモニターや出入口に設置している監視カメラの画像を確認し、不審者の侵入を予防している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらい ③職員の3分の1くらい ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらい ③家族の3分の1くらい ④ほとんどできていない